

# 未来

郵政産業ユニオン  
**PIWU**

全労協・郵政産業労働者  
ユニオン長崎中野支部  
機関紙 「みらい」  
NO. 4115  
21年1月1日(金)  
Tel・Fax 095-828-1953

# 2021年も たたかうぞ

おはようございます。  
謹賀新年。

世界で最初に労働組合ができたのは十九世紀のイギリスであり、その国で労働党をつくり、労働者のための政治を展開したシドニー・ウェブは、「労働組合とは賃金労働者が、その労働条件を維持・改善するための恒常的な団体である」という。また、「イギリス労働運動史」(コール)によれば、「産業革命が労働運動を産み落とした」ともいう。  
では日本ではどうか。一八九四(明治二七)年〜九五年

の日清戦争を機に、産業革命がおこり労働運動も始まる。

戦争景気に沸き、戦後不況の日本経済を背景に、一八九七(明治三〇)年、アメリカから帰国した高野房太郎や片山潜らが、日本初の労働組合である労働組合期成会を作る。当時、書かれた片山の「日本労働運動」には、「余はすべての方法で労働組合の組織されんことを望む」と訴えている。



しかし日本では太平洋戦争が終わる一九四五(昭和二〇)年まで、市民労働者の権利は奪われ、まさに絶望・暗黒の全体主義国家だったのだ。その中で、戦前、治安維持法で一〇年もの獄中生活を送った細谷松太は、戦後できた労働組合の産別会議の事務局長を務めたが、彼は先のウェブの言葉を受けて、「労働組合とは労働者と資本家の対立を前提とした生産関係から生

まれた社会運動だ。この生産関係が変わらない限り、労働運動もまた、その原則を変えることはない」と書き、「初心忘れるべからず」と語る。(細谷、日本労働運動史から)

産業革命とは、封建王侯が農業と土地を基盤に支配した人々と生産関係から、会社(資本家)と労働者による工業生産、商品生産関係に変えた革命である。それを資本家は自由主義社会とした。農民は賃金労働者になり、市民と呼ばれ、歴史的には封建社会を市民社会に変えたのである。

自由主義の国家市民社会には市民としての権利があり、労働者や労組にも基本的権利が与えられることで成立する。

しかし、イギリスでも日本でも労働者の権利は一〇〇年の時間と厳しいたたかい(血と汗と涙)が必要であった。資本家はただでは権利を認めなかったのである。その理由は自由社会の原則、資本家の私有財産の権利と、労働者が要求する諸権利の利害が対立するからである。

労働者の権利とは何か。戦後憲法にいう基本的人権の保障である。また労組の権利とはなにか。それは労働三原則

と呼ばれる、①、団結権。②、団体交渉権。③、団体行動権(争議権)である。この保障があつて初めて自由主義社会、市民社会と対等な労使関係は成立する。

しかし、戦後すぐの一九四七(昭和二二)年の産別会議のゼネストを連合国軍GHQのマッカーサーが禁止令を出し、その後、公務員労働者のスト権をはく奪し(政令201号)、たたかう労働運動を弾圧すること、日本の公務・現業の職場にはスト権が「禁止」される。日本はいわゆる市民権を奪われたままの不正常な国なのである。

こうして長い労働者のスト権奪還闘争が続くのであるが、しかし、一方で、国や資本家だけでなく、「違法スト」を悪とみる労組、団体が並行した社会でもある。国や会社と協調する労働運動が「当たり前」だとする流れである。こうしてストをする人を過激派とする批判が今も続く。

この一例はつい数年前、ある労組がスト権を提起した途端、多くの労働者が脱退したことがあつた。もとは現業で



あつたが今は民営化されて、スト権は合法なのであるにも関わらず、意識が「違法スト」にある人たちである。わが郵政でも、これは変わらない。二〇〇七年に郵政は民営化され、スト権は回復した。当然ながら私たちが郵政ユニオンはそれ以降、毎年スト権を行使している。労働者が団結し、要求し、交渉をして、話し合いが成立しないときの力の行使は、労働組合の常識として容認される。これこそ産業革命によりできた市民社会の労働者の権利の原点なのである。

郵政で違法ストと批判し、当時の全通を脱退し、同盟系の労組を作った人たちは、以降、一九八九の連合発足、そして、全通との組織統合後も含め、ほぼ六〇年間、ただの一度もスト権を行使していないし、ストを行う人たちを「会社破壊者」と批判する。これを見ると、違法スト論は口実で、本音は協調が大事であり、自由主義社会の市民の権利を否定する論と人々である。

言葉を換えれば、これは自



由社会の当然の行動を批判する全体主義者であり、権利を否定する全体主義の論なのである。国や会社(資本家)と協調することを労働者と運動に半ば強制する思想は、市民社会以前の封建社会の二〇〇年前の「お上大事」の封建思想にとらわれている。

時代は全地球的な気候変動や資源不足の中、産業革命が生んだ生産様式の資本主義の峠を越えていく。当然ながら産業革命が生んだ労働運動なら、時代の変革期にはこれも終わるのだろうか。いやそうではない。資本主義の生産関係が変わらない限り労働の対立は続き、運動は原則的に続くのである。

一方、労働運動は仕事帰りの労働者の居酒屋でのグチャや苦労話の中で生まれたともいう。いまコロナ禍で労働者が集まり、酒を飲み、話し合う場もむずかしいが、この厳しい時代を乗り越え、次の時代を切り開く力は、働く人であり、たたかひにあるということを明言して、年頭のあいさつとします。

二〇二二年一月一日  
郵政産業労働者ユニオン  
長崎中野支部  
組合員一同

期間雇用パート労働者の皆さん! 困りごとは職場の郵政ユニオンへご相談を。

1集-海江田, 2集-向井, 3集-山田, 支部・分会の役員へ。

仲間と競争せず、弱立場の人と共に団結して闘おう。

期間雇用社員の希望を主眼の正社員化を。

ゆがみ、均等待遇を。

なげうち差別。

ユニオンは労働法裁判に勝利を。